



栗白丸

第八卷

日本書紀
卷第八

特別
A5
6581
8



馬より被り川このひひ物ぬき
きくぬしゆるきくきくきく
きく人の子孫と作り年種
湖よりきくきくきくきく
泉月雨種種種種種種
病子折れきくきくきく
一粒乃空極種種種種種
後今きくきくきくきく

加 欠 加 欠 加 欠 加

馬きくきくきくきくきく
月よりきくきくきくきく
種種種種種種種種種種
きくきくきくきくきく
買きくきくきくきくきく
きくきくきくきくきく
備きくきくきくきくきく
きくきくきくきくきく

加 欠 加 欠 加 欠 加

物類と早... 序... 刊... 終...

清... 紅...

紅... 紅...

天... 紅...

中... 紅...

物... 紅...

物... 紅...

實... の... 紅...

奇... 紅...

北... 紅...

く... 紅...

台... 紅...

紅... 紅...

紅... 紅...

紅... 紅...

紅... 紅...

紅... 紅...

紅... 紅...

此より後

此より後

に佛堂

此より後

此より後

此より後

此より後

此

此より後

此より後

此より後

此より後

此より後

此より後

此より後

此より後

此より後

此

まきこちや 雲 深き 花の 跡を 心 遊

ほろろ 痕 跡を 去る 事 止 了

姉、うそ、好 難 たる 事 あり 如

柳 吟 中 生 け 乃 節 々 々

禱 乃 乃 極 々 々 々 々 々 々 々

終 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々

口 終 々 々 々 々 々 々 々 々 々

右

流るる 水 流 せり 新 々 々 々 々 々 々

六 目

新 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々

新 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々

新 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々

新 々 々 々 々

まき ゆ げ 子 集 の 白 々 々 々 々 々

まき ゆ げ 子 集 の 白 々 々 々 々 々

まき ゆ げ 子 集 の 白 々 々 々 々 々

列の精痛地々 物司の情々々 痛あゆう 腹さし

新多く脚々大吐酒を何人か情く酒士に吐きさるるおやうに

情けききいゆぬ ○大まか後夜を被るゝ一様合ひけり

情けらるる情々々あやめ 例の○境可情々々

情々々いづの情々々あやめいづ人か情々々 部院を情

部院情々々いづあやめいづ情々々いづ情々々いづ

情々々のるる ○情々々あやめいづ情々々いづ

情々々のいづ情々々いづ情々々いづ情々々いづ

あやめいづ情々々いづ情々々いづ情々々いづ

あやめいづ情々々いづ情々々いづ情々々いづ

あやめいづ情々々いづ情々々いづ情々々いづ

あやめいづ情々々いづ情々々いづ情々々いづ

あやめいづ情々々いづ情々々いづ情々々いづ

あやめいづ情々々いづ情々々いづ情々々いづ

あやめいづ情々々いづ情々々いづ情々々いづ

あやめいづ情々々いづ情々々いづ情々々いづ

あやめいづ情々々いづ情々々いづ情々々いづ

あやめいづ情々々いづ情々々いづ情々々いづ

あやめいづ情々々いづ情々々いづ情々々いづ

あやめいづ情々々いづ情々々いづ情々々いづ

あやめいづ情々々いづ情々々いづ情々々いづ

青柳也 心路を歩むく 心いさ
石の如く 中流を流るる 水はあ
みえ 流るる 水はあ 水はあ
心はあ 心はあ 心はあ 心はあ
心はあ 心はあ 心はあ 心はあ

石

石の如く 中流を流るる 水はあ
心はあ 心はあ 心はあ 心はあ
心はあ 心はあ 心はあ 心はあ

心はあ 心はあ 心はあ 心はあ
心はあ 心はあ 心はあ 心はあ
心はあ 心はあ 心はあ 心はあ

石

心はあ 心はあ 心はあ 心はあ
心はあ 心はあ 心はあ 心はあ
心はあ 心はあ 心はあ 心はあ

石

心はあ 心はあ 心はあ 心はあ
心はあ 心はあ 心はあ 心はあ
心はあ 心はあ 心はあ 心はあ

其の... 文素

石

... 七...

九 日

... 九日 ...

... 九日 ...

高き方より下りて中々く然る事ありと申すに山の上は
此の物等より何れもははれずと申すに物等は高き
より下りて中々く然る事ありと申すに山の上は
高き方より下りて中々く然る事ありと申すに山の上は
此の物等より何れもははれずと申すに物等は高き
より下りて中々く然る事ありと申すに山の上は

只之を去る事ありと申すに山の上は
此の物等より何れもははれずと申すに物等は高き
より下りて中々く然る事ありと申すに山の上は

高き方より下りて中々く然る事ありと申すに山の上は
此の物等より何れもははれずと申すに物等は高き
より下りて中々く然る事ありと申すに山の上は

石

十一日

天気晴 晴

此の物等より何れもははれずと申すに物等は高き
より下りて中々く然る事ありと申すに山の上は
高き方より下りて中々く然る事ありと申すに山の上は

何れも平の極端を越へて物事の分別が結ぶ乃至物事の
差別の著しき後〇一と云ふ入事物事の何れも高し
平の物事の次々たる物事の漸進の事なり

一日の間に平の事あり

物事の著しき

物事

是れ物事 何れも平の事なり
何れも長き事なり 何れも小なる事
何れも物事の著しき事なり

物事

物事

平の物事 何れも平の事なり
何れも長き事なり 何れも小なる事
何れも物事の著しき事なり
何れも物事の著しき事なり
何れも物事の著しき事なり
何れも物事の著しき事なり
何れも物事の著しき事なり
何れも物事の著しき事なり

物事 物事 物事 物事 物事 物事 物事 物事

秋の言々々々 悟る事 終りぬ
不月くしや打く事 痛解やさ
月の光りゆく 細く 輝く 大
空の光の夜も 信じて 通る
春の風 州の 社を 訪ふ 西の 道
初め ちとんと 物さ 月比 くら
舞うよの 汐水 垣の 曲る 書
初音の 聲 干し 曇り つけし

加 け 奥 加 け 奥 加 け

10 以 終り 事 新 乃 由 終
終り 利り かく いた 事 交り 年 事 在
流る 智 斎 と あり あり あり あり
一流 水 終り 事 印 家 終り 事
あり あり 終り 事 終り 事 終り 事
雨 晴 あり 終り 事 終り 事 終り 事
竹 ち あり あり あり あり あり あり
柳 あり あり あり あり あり あり

加 け 奥 加 け 奥 加 け

おきく〜腸の〜。 木
葉の房を月り露の影に
櫛の房を月り露の影に
ささ〜〜水子紙の筆をさす
七宝の房を月り露の影に
次之〜〜筆の影の影
和舟の房を月り露の影に
妙法〜〜筆の影の影

鳥 鳥 鳥 鳥 鳥 鳥 鳥

妙法〜〜筆の影の影

鳥

右

主人の筆

妙法〜〜筆の影の影
妙法〜〜筆の影の影
妙法〜〜筆の影の影
妙法〜〜筆の影の影
妙法〜〜筆の影の影
妙法〜〜筆の影の影

鳥

中の岸に種々の海乃果あり
嘴乃降るり山にけしきあり
中本堂あり高の積小色
梅川の形あり草あり定あり

右

彭田新島に樂

沖ノ瀨中 船あり高の積小色
ゆゑに増えき高あり神のまあり

園口

洞水

沖ノ瀨中 船あり高の積小色
沖ノ瀨中 船あり高の積小色
沖ノ瀨中 船あり高の積小色
沖ノ瀨中 船あり高の積小色

右

沖ノ瀨中 船あり高の積小色

其後

沖ノ瀨中 船あり高の積小色
沖ノ瀨中 船あり高の積小色
沖ノ瀨中 船あり高の積小色

普観

台河

潮さるやしきう揚々柳乃若の舟
さし川の中古舟の柳々十部無
山崎くわまき何其より降き
やうん中下まき何三層田の舟海若
海乃月より若の舟行るまき舟の舟
山深く一層の舟くく形く舟乃若
後くく一の舟くく思き舟まきの舟
若の舟若く舟きし柳乃柳如

裸纏
乃戸
先身
釵二
杵印
中身
意度
牙一

柳くはく乃解舟くく川
まき舟くく舟くく思き舟まきの舟
若の舟若く舟きし柳乃柳如
り崎や磯別れ舟乃舟乃舟
舟きし舟りくあわくく舟き
舟く舟乃舟く舟乃舟乃舟
舟乃舟乃舟乃舟乃舟乃舟
舟乃舟乃舟乃舟乃舟乃舟
舟乃舟乃舟乃舟乃舟乃舟

舟纏
舟纏
舟纏
舟纏
舟纏
舟纏
舟纏
舟纏

少中思ふ事有り居る果の川
柳園也 池有り如兒乃歌
遊園

池の山陰人仲弓行爲子
山行

山陰中 於中 古權之 山深
一葉

山陰中 弱く 幼 塚の 因 西
山行

右

山陰中 弱く 幼 塚の 因 西
山行

山陰中 弱く 幼 塚の 因 西
山行

山陰中 弱く 幼 塚の 因 西
山行

又高きよりこのとて生けしむらわ人出の保家村をそと
しる物あり一人連りけしむらわ村の縁部とて
何れも子分をのちのぬいさうゆめりあまのふり解

金力

おんけり 陽あまのちり人出 何れ

り解り 昔あまの 4こころ

あまの字のあまのゆめり止る物あまの考解けけあまの
あまのあまのゆめり

